

# 笑顔輝く せたっこ通信

令和7年11月  
大津市立瀬田幼稚園

## 大人も子どもも地域との関わりの中で育つ

先日行われた秋まつりでは晴天に恵まれ、親子で風船飛ばしをすることができました。この風船飛ばしは地域の方が「瀬田幼稚園の園児のために」と何年も前から続いています。朝早くから風船のガス入れに来てくださったスポーツ少年団の保護者の方にも感謝致します。「どこまで届くかな？」と楽しみにしている中、その日の午後には栗東に、翌日には静岡に届いたと3件、秋まつり実行委員会事務局に連絡をくださいました。そのうちの1件は保育園の園庭で、園児が拾ってくださったそうで、早速電話をしました。保育園の園児はとても驚いていて、「自分たちも飛ばしてみたい。」と言っていたそうで、「夢があっていいですね。」と仰ってくださっていました。これも何かのご縁！！子どもたちに話をして「何か」ご縁がつながることをしたいと考えています。

秋まつりでは、おもちつきもしてくださいました。子どもたちも初めて杵をもったかもしれませんが、教師も初めておもちつきをした者もいます。ぎこちない動作ですが「よいしょ！」のかけ声に気持ちも高まり、いいおもちに仕上がりました。



また、小学校の体育館ではPTA 役員の皆さんが射的のコーナーを担ってくださいました。始まる前から長蛇の列で子どもたちが楽しみにしていることが列の長さで伝わってきました。「秋まつりといったら射的」という伝統ができているように感じました。PTA 役員の皆さんが瀬田学区の子どもたちのために、準備から片付けまで協力してください、本当にありがとうございました。

こうして、幼稚園と地域が密になることで、大人と子どもがひとつになりながら育つ経験をさせて頂いているな。と感じます。



## お芋掘りのあとは

子どもたちとお芋掘りをした後には毎年、幼稚園の応援団長の自治連合会 岸場会長が耕運機をもって畑を耕してくださいます。初めて見る耕運機と手際のよさであっという間に畑がきれいになり、子どもたちの目は釘付けでした。有難いことです。



## 初めましてレイモンドさん 子どもたちの力

5歳児の子どもたちが初めて出会うレイモンド瀬田こども園さん、レイモンド大津保育園さんのとの交流。子どもたちはどのように関わっていくのだろうと、少し心配しながら交流の日を迎えました。

挨拶をした後、園庭に出て遊び始めたのですが、思い思いの遊びの場へ駆け出し、「これってどうやってするの？」と尋ねられたら「これはね…」と遊び方を相手が分かるような言葉を使ったり、実際にやって見せたりする姿があちらこちらで見られました。

「相手が分かる言葉」子どもたちは、ここに意識をしているわけではなく、自分が経験したことを伝えていることそのものが、「相手が分かる言葉」になっていると子どもたちの会話を聞いていて思いました。例えばスイングスキップでは「ここに足を入れて、回して、こっちの足で飛び越えるの。足が大きかったら靴を脱いで入れてから靴を履くとできるよ。」と伝えていました。

教えてもらったようにやってみると「あ〜そういうことか。」と嬉しそう。言っただけでなく、最後まで見届けている姿にも感動。写真を見て分かったのですが、後にいる子どもも話を聞いていたのか、同じように足を入れていました。興味があること、やってみたいと思うことに対して情報を収集する力があることに5歳児の力を感じました。

そしてリレーでは、「リレーする人集まって！！」と呼びかける大きな声がありました。あっという間に3園の子どもたちが集まり、教師が「ルールは？」「チームは？」「順番は？」と言わなくても列に並びリレーが始まりました。どこの園でもリレーを経験してきたからこそその姿です。

何よりも、初めて出会ったのに自分たちから関わっていく力の逞しさを感じました。日頃、小学校の先生や5年生（時々6年生）との交流を重ねてきたことで「人と関わる楽しさ」を経験できているのだと思います。

**そして！！明日（11月11日）**

**3園の子どもたちがリレー対決をします！！**

この通信は大津市のホームページからも見て頂くことができます。

